

地域レベルの会議における主な議論のまとめ (地域の課題および市の課題)

- (1) 地域で起きている問題と課題は、1～9のテーマに分類し、地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で話し合われた内容をそれぞれ記載した。
- (2) 地域での対応方針は、地域包括ケア推進会議で挙げられたものを内容に応じて、「実態把握」、「普及啓発」、「連携強化」、「取組検討」の4つに分けた。
- (3) 個別ケア会議で複数のテーマに跨る事例については、主なテーマ部分を太字で、それ以外は「再掲」と表記した。
- (4) 市レベルの課題は地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で挙げられたものをそれぞれ記載した。

松戸市地域ケア会議におけるテーマ

テーマ
1. 生活の困りごと (介護予防・生活支援・移動支援・ペット等)
2. 認知症
3. 権利擁護(虐待含む)
4. 見守り
5. ケアラー支援
6. 防災
7. 医療・介護連携
8. 多分野・多文化・地域共生
9. 地域で支える仕組み

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
1.生活の困りごと (介護予防・生活支援等)	<p>【介護予防】 ○感染症予防のための口腔ケア重要性の周知が足りない。(個16) ○地域で支援し本人の能力に応じた参加をサポートができない。(個26)</p> <p>【生活支援】 ○新規入居時における課題の有無の把握。(個30) ○家族間の不和。(個37) ○身寄りのないまたは、身寄りがあっても頼れる親族がいない高齢者の支援が不足している。(個40)</p> <p>【その他】 ○精神疾患のある方の医療介護連携の構築。(内科・精神科・介護)(個30) ○支援者のシャドーワーク。(個33) ○閉じこもりがちになってしまった高齢者との地域で関わりを持つことが難しい。(個39) ○経済的困窮、複雑な家族状況に伴う生活リスクに対する支援や見守体制の構築が必要。(個55)</p>	<p>【介護予防】 ○運動リハビリの専門職への期待。(明第2西) ○フレイル予防のための栄養・食事指導について。(明第2西) ○介護予防についての住民向け情報発信(明第2西)</p>	実態把握		<p>○支援者のシャドーワークが社会問題となっている。 ○入退院支援等、業務外支援を行っても賃金を発生させる仕組みがない。 ○市道にまたがる側溝上への福祉用具の取付けの相談先が不明瞭。</p>		明第2西
			普及啓発	<p>○イラストなどでわかりやすく解説した介護予防体操のパンフレットを作成して地域の高齢者に広く配布する。</p>			
			連携強化		<p>○経済的困窮、複雑な家族状況に伴う生活リスクに対する支援や見守体制の構築が必要。</p>		
			取組検討	<p>○通いの場に専門職を派遣してもらう。 ○地域の通いの場に専門職が来て運動指導してもらえる機会を増やす。 ○施設で働いている管理栄養士に栄養をテーマとした地域住民向けフレイル予防教室を開催する。</p>	<p>○家族(夫婦)関係の相談先がない。 ○高齢者の身元保証制度が不十分。</p>	<p>○デイサービスに通わなくても、介護予防のための地域の通いの場に専門職が時々来て指導する仕組み。 ○医療機関や施設などで働いている管理栄養士が地域住民向けに栄養指導する仕組み作り。</p>	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
1.生活の困りごと (移動支援・ペット等)	【移動支援】 ○移動困難者が外出しにくく閉じこもり傾向になる。(個58) ○車の運転を止められない高齢者。(個38)	【移動支援】 ○地域は限定的だが買い物に出かけることが困難な高齢者がいる。(明第2東) ○圏域の中でどこが買い物難民になっているかは地図を作成したうえで把握するところまではできたが、実際、利用したい人がどれくらいいるのかが把握できていない。(明第2東)	実態把握	○回覧板の中にアンケートを入れたらどうか。			明第2東
			普及啓発			○買い物難民に対して、解決につながるツールをさらに啓発する必要がある。	
			連携強化			○市役所で直接介護保険申請し、認定後、サービスを利用すれば包括が関わることになるが、利用しない方は包括が把握できないので、情報共有が必要だと思う。	
			取組検討	○医院などに包括の役割を説明し、今までの関わりの中で、歩行が不安定になったなどの気づきがあれば、声掛けを行う。 ○薬剤師会では、患者の状況の報告を毎月報告しているが、会話がかみ合わない位の方を報告していたが、買い物などに困った方も対象とする良いのではない。	○移動手段の駅や商店から離れている地域もあり、バス以外の資源が少ない。		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
2.認知症	<p>【見守り体制】 ○認知症の方と近隣住民のトラブルを当事者だけで解決できないケースが増えている。(個5) ○認知症高齢者に対し、地域でどこまで見守りができるかがわからない。(個10、個56) ○地域で支援できることの把握ができていない。(個28) ○認知症の高齢者を地域で支える体制が不足している。(個32) ○認知症の高齢者を若い世代に知ってもらう方法が不足している。(個32) ○地域住民の認知症に対する理解(個53)</p> <p>【介護者支援】 ○介護者も高齢で認知症となっている。(個10) ○支援者の連携不足。(個27) ○子の支援が必要だができる体制が整えられていない。(個27、個28) ○本人(家族)の認知症に対する理解不足。(個31、個52再掲)</p> <p>【その他】 ○地域で高齢者のハラスメント対策などを相談出来る環境がない。(個14) ○本人の性格や認知症、病状から地域で孤立する可能性がある。(個34) ○本人が車の運転をやめてくれない。(個38再掲)</p>	<p>【認知症の方の見守り体制】 ○「認知症になっても安心して暮らせる街まつ」を実現する為に地域で具体的にできることは。(五香松飛台) ○今年度より始まった見守り側としてのつながり協力員をどう増やし、オレンジ協力員、民生委員などの活動とどう連携させるか。また、見守りを求めている方々を見つけ、どうつなげていくか。(馬橋西)</p> <p>【地域の社会資源】 ○認知症への理解を広げるために地域でできる取組について。見守りシールの普及啓発についての検討。(馬橋西)</p>	実態把握	<p>○認知症ケアパスではMCIと初期が一括りになっているが実際は状況が違うと思われる。 ○MCIの方は自分が認知症と理解している為、外部に知られたくない思いから引きこもりがちとなる。家族も近隣に知られたくない。 ・認知症を正しく理解する事が難しい。</p>			五香松飛台 馬橋西
			普及啓発	<p>○子どもを対象とした認サボや徘徊高齢者の声かけ訓練を継続実施。 ○「向こう3軒両隣」の関係構築の普及啓発。 ○認知症サポーター養成講座、QRコード等高齢者がよく集まるところに具体例等も含めて案内をしていく。 スポーツジム、郵便局等への案内も検討。</p>	<p>○認知症の人が安心して暮らせる仕組みを若い世代に周知できていない。 ○高齢者の免許返納。 ○地域住民の認知症への理解。 ○親が認知面低下していることを、子は認めたがらない傾向がある。</p>	<p>○小、中学生に認サボ授業を必須とする。 ○認知症の普及啓発活動。 ○認知症ケアパスではMCIと初期がひとくくりになって記載されているが、状況や対応などは違うと思われるので分けて記載できると認知症への理解が深まるのではないかな。</p>	
			連携強化	<p>○相互に見守る事が出来るような体制を整えていけたらよいのではないかな。 ○2か所の学童で認サボ。中学校全生徒に認サボと徘徊声かけ訓練を継続実施。 ○中学生が徘徊高齢者に声をかけ包括に引き継いだ。</p>	○民生委員への見守り協力を仰ぐ。		
			取組検討	<p>○継続して見守る側、見守られる側の募集を続けていく。 ○ケアプラン、サービス終了した方などへの案内を行う。</p>	○道に迷う人が地域で安心して暮らすことができる社会づくりができていない。		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
3.権利擁護 (虐待含む)	<p>【虐待等】 ○DVを受けている自覚がないため、被害者へ介入する機会がない。(個38) ○家庭内で虐げられている人のエンパワメント不足。(個38) ○こだわりが強く、周囲からのアドバイスがなかなか入らない。(個51)</p> <p>【セルフネグレクト】 ○ゴミ屋敷になるまでの間、地域とのかかわりがなかった。(個46)</p> <p>【成年後見制度等】 ○日々の細々とした金銭管理への支援が不足している。(個43)</p> <p>【意思決定】 ○ACPの必要性はわかっているが、実施できる環境はまだ整っていない。(個7) ○独居高齢者の意思支援。(個7、個25、個40再掲)</p> <p>【生活困窮】 ○生保基準を満たさないケースへの金銭管理の支援が必要。(個3) ○日常生活自立支援事業が待機となる。(個3) ○経済的困窮があると、サービス利用まで時間がかかる(個31)</p> <p>【その他】 ○退院後の継続したリハビリ職の評価、枠組み必要。(個3) ○被害妄想が強いと地域の人に関わりをもつことが難しい。(個25)</p>		実態把握		○日常生活自立支援事業の待機。 ○日々の細々とした金銭管理への支援が不足している。(日常生活自立支援のみ)		
			普及啓発				
			連携強化		○警察や民生委員の協力。 ○ゴミ屋敷になるまでの間、地域とのかかわりがなかった。		
			取組検討		○経済的困窮があると、サービス利用まで時間がかかる。 ○夫婦県の改善を相談できる機関がない。 ○高齢者の身元保証制度が不十分。 ○こだわりが強く、周囲からのアドバイスがなかなか入らない。		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
4.見守り	<p>【地域からの孤立】 ○地域と関わらず暮らしている世帯がいる。(個37)</p> <p>【見守り体制】 ○本人が望んでいないと関わることが難しい。(個37) ○拒否的でサービスにつながらない方への継続的な見守り体制がない。(個50) ○認知症の高齢者を地域で支える体制が不足している。(個32再掲) ○認知症の高齢者を若い世代に知ってもらう方法が不足している。(個32再掲) ○高齢独居で家族の支援が受けられない方の見守り。(個43再掲) ○オレンジ協力員・民生委員・町会などによる個別支援。(個42再掲、個44再掲) ○家族と同居する方は多いが孤立している方も多い。生きがい、コミュニティに関し必要性を共有する場が必要。(個57再掲)</p> <p>【その他】 ○親族はいるが音信不通となっておりKP不在の世帯が増えている。(個11) ○感染症予防のための口腔ケア重要性の周知が足りない。(個16再掲)</p>	<p>【社会資源】 ○見守りの結果、地域包括に繋がったとしても、介護や医療の課題がない方の緊急の家事支援のサービス等の社会資源が不足している。(小金)</p> <p>【見守り体制】 ○気になる高齢者がいた場合、どの程度でどの専門機関に繋ぐかの判断が地域住民では難しい。(小金)</p> <p>【人手不足】 ○民生委員や町会役員等の担い手が不足している実態がある。(矢切) ○ボランティア活動を希望する方は既存の活動についており、新たな発掘は難しい。(矢切) 地域の活動に参加しない方へのアプローチにどう取り組むか。(矢切) ○住民同士のつながりが希薄になっており、見守りの担い手も減っている。また、地域住民に見守りの担い手としての当事者意識があまりない。(小金)</p> <p>【その他】 ○個人情報の管理も懸念される。(矢切)</p>	実態把握	○参加しやすい活動の場を把握する。			矢切 小金
			普及啓発	○地域の居場所等の情報を届ける「出てこない方」への伝え役は必要。 ○「気になる高齢者」の判断は各々の主観に頼っており、判断基準は曖昧な状況。	○認知症の人が安心して暮らせる仕組みを若い世代に周知できていない。		
			連携強化	○つながり協力員は居場所等への参加者を緩やかに見守り、気になる方の情報を民生委員等専門職につなげていく。 ○地域の見守りの担い手が、高齢者を見守っている。気になる高齢者がいた場合は、地域包括へ連絡し、同行訪問、介護、医療に繋がっている。	○拒否的でサービスにつながらない方への継続的な見守り体制がない。		
			取組検討	○見守りは民生委員がこれまで通り担う。 ○つながり協力員の体制構築を目指す。 ○地域の見守りの担い手を中心に、高齢者を見守る。 ○小金版見守りチェックシートの作成について検討する。 ○事前にネットスーパー等について情報提供。	○靴に仕込むことができるGPSの追加、緊急通報装置などを見守りサービスの導入。 ○本人の話を傾聴する資源やサービスがあるといい。 ○経済的困窮、複雑な家族状況に伴う生活リスクに対する支援や見守り体制の構築が必要。	○協力員の活動の枠組みを、市の方針を明確にしてほしい。 ○市レベルでの高齢者の見守りについて、必要に応じ松戸市版見守りチェックシートの作成を検討する。 ○介護や医療の課題がない方の緊急の家事支援のサービス等の社会資源について検討する。	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
5.ケアラー支援	<p>【ケアラー支援】</p> <p>○若い人のフォーマル、インフォーマルサービスがなく、孤立している。(個1)</p> <p>○男性のリタイア後の居場所がない。(個1)</p> <p>○介護者も高齢になっている。(個9)</p> <p>○地域とのかかわりが少ない。(個9)</p> <p>○世帯として支援を必要とするケースが増えている。(個12)</p> <p>○世帯として収入はあるが不要部分にお金を使ってしまい必要な部分の支払いが困難になっている。(個12)</p> <p>○夜間や休日など、行政の介入が難しい時間帯の緊急時の対応方法について、地域住民へ周知しきれていない。(個17)</p> <p>○専門職の関わりだけでなく、身近なところで民生委員が配偶者の愚痴など傾聴出来るが良い。(個41再掲)</p> <p>○当事者の会や家族会の活用。(個41再掲)</p> <p>【支援者の課題】</p> <p>○親も子も病気や障害などの複数の課題を抱える世帯への支援における他機関連携ができてない。(個6)</p>		実態把握		<p>○認知症の人の意思決定支援方法についての難しさ。支援体制の整備不足。</p> <p>○介護離職防止の支援体制の整備不足。</p> <p>○介護離職者に対する経済的な援助をする仕組みがない。</p>		
			普及啓発		<p>○当事者の会や家族会。</p>		
			連携強化		<p>○専門職の関わりだけでなく、身近なところで民生委員も配偶者の愚痴など傾聴出来るが良い。</p>		
			取組検討				

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
6.防災	【災害時の支援】 ○災害の際、避難できない方へ地域で支援する働きかけ。(個33)		実態把握				
			普及啓発				
			連携強化				
			取組検討		○災害の際、避難できない方へ地域で支援する働きかけ。		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
7.医療・介護連携	<p>【医療連携】 ○複数の病院を受診する方の医療情報が把握できない。(個49) ○大病院との医療連携が難しい。(個52)</p> <p>【医療・介護連携】 ○フレイル予防での糖尿病合併症リスクがある方の抽出、予防的な取り組みの検討。(個4) ○糖尿病患者の認知症スクリーニング検査。(個4) ○かかりつけ医がいないと、体調に異変に対して気軽に受診できない。(個22) ○家族の稀薄性。(個48) ○通院の支援制度が無い。(個54)</p> <p>【その他】 ○医療介入を拒否する高齢者の支援。(個36)</p>	<p>【医療連携】 ○医療につながっていない高齢者がかかりつけ医を持つことが必要。(東部)</p> <p>【その他】 ○地域住民の消費者被害を防ぐための地域の関わりをどうしたら良いか。(東部) ○独居、高齢者世帯、同居の子も障害があるなど世帯の複雑化。(新松戸) ○家族や地域と疎遠になっている人もいれば、依存しあうなど他者との関係がうまくいかず、支援者との関係構築が難しい方が増えている。(新松戸) ○支援が一筋縄ではいかない本人や家族。(新松戸) ○介護業界の人材不足。(新松戸)</p>	実態把握				東部 新松戸
			普及啓発	○市の健康診断をきっかけに定期的に行くよう声かけをする。		○かかりつけ医を持つように、さらに広く市民に呼びかけることを強化する。 ○防犯に関して、チラシだけではなく、防災無線のように、耳からも入るよう更に、働きかける。	
			連携強化	○民生委員が地域包括に繋ぎ、受診に繋がっている。	○大病院との医療連携が難しい。 ○複数の病院を受診する方の医療情報が把握できない。	○健康推進課のアプローチをいかして医療機関受診に繋げる。 ○支援者を支援していくためのツール作成や研修。	
			取組検討	○受診拒否には往診が有効、そこからかかりつけ医に繋がる。 ○地域の方に相談できるように、民生委員や見守りをしている方にも協力してもらう。 ○複数の業者に見てもらうようにことを折に触れて伝えていく。	○通院の支援制度が無い。	○これまでの個別ケア会議等で出た意見、今回の講演やグループワークで出た意見をまとめ、支援者向けのハンドブックを作成し、支援者のスキル向上や離職防止へ繋げていく。	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
8. 多分野・多文化・地域共生	<p>【多分野・多文化・多世代支援】</p> <p>○多言語多文化の方への支援機関、コミュニティー等の把握と連携ができていない。(個15)</p> <p>○8050世帯が潜在しており、地域包括が把握できていない事例がある。(個19)</p> <p>○専門職の関わりだけでなく、身近なところで民生委員も配偶者の愚痴など傾聴出来るが良い。(個41)</p> <p>○当事者の会や家族会の活用。(個41)</p> <p>○障害を持った若い世代の方の居場所づくり。(個44)</p> <p>○オレンジ協力員・民生委員・町会などによる個別支援。(個44)</p> <p>○本人が参加可能なボランティア活動の周知。(個47再掲)</p>	<p>【多文化】</p> <p>○言語の違いによりコミュニケーションの困難さがある。(本庁)</p> <p>【多分野・多世代支援】</p> <p>○理解力の乏しい子へ親の病気について説明が必要だが、理解されない。(常盤平)</p> <p>○キーパーソン不在により、適切な介護サービス導入の困難である。(常盤平)</p>	実態把握	<p>○先々の本人希望を元気なうちにしっかりと確認しておく。</p> <p>○「8050問題や障害の家族問題」など、初回訪問時の家庭状況を見逃さない広い目を持つこと。</p>			本庁 常盤平
			普及啓発	<p>○やさしい日本語や通訳ツール等の普及啓発と活用。</p> <p>○多言語の松戸市生活ガイドブックやウェブサイトの普及。</p> <p>○多言語対応の市相談窓口の普及。</p> <p>○早い段階での成年後見の普及啓発。</p>	<p>○当事者の会や家族会。</p> <p>○本人が参加可能なボランティア活動の周知。</p>	<p>○やさしい日本語、多言語ウェブサイトの更なる周知。</p> <p>○幼少期からの福祉教育。</p> <p>○障害の子を隠している世代に向けての啓発と、やさしくわかりやすい相談先の提供。</p>	
			連携強化	<p>○今後のリスクなどについて自覚してもらえる体制づくり。</p>	<p>○専門職の関わりだけでなく、身近なところで民生委員も配偶者の愚痴など傾聴出来ると良い。</p>		
			取組検討		<p>○障害を持った若い世代の方の居場所づくり。</p>	<p>○障害者相談の積極的介入。</p>	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し 合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
9.地域で支える 仕組み	【地域の関係性構築】 ○傾聴ボランティアの担い手が不足してい る。(個60) 【住民参加・集いの場】 ○前期高齢者が参加しやすい場などの社会 資源が少ない。(個13) ○認知症の当事者同士の地域資源が無い。 (個18) ○本人が参加可能なボランティア活動の周 知。(個47) ○外出が困難な方が参加できる自助グルー プが集まる所がない。(個59) 【地域での見守り・支援】 ○シャドーワークに対する社会資源が薄い。 (個20) ○真実を明かさない人の支援方法がない。 (個29) ○日常的に簡単に行うことができる介護予 防のしくみづくりがない。(個29) ○身寄りのない高齢者を地域で支える仕組 みが不足している。(個33) ○傾聴支援を増やし、社会とのつながりを支 援する。(個42) ○認知症の高齢者を若い世代に知ってもら う支える方法が不足している。(個32再掲) ○本人が望んでいないと関わるのが難し い。(個37再掲) ○生きがい、コミュニティに関し必要性を共 有する場が必要。(個57再掲) 【その他】 ○住環境のバリアフリー化。(個29) ○高齢者を支える社会資源不足。(個35)	【地域の関係性構築】 ○地域活動担い手の高齢化・後継者問題、地 域活動同士の横の繋がりについて。(明第1) ○「問題を抱えた家族に対し、地域でできる 関わり方とは？」～モラハラ、8050、生活困 窮、病を抱えている等々～(六実六高台) 【地域での参加・見守り・支援】 ○成年後見制度の有用性を周知できる人が 少ない。(常盤平団地) ○認知機能低下予防策の強化が必要。(常盤 平団地) ○日常的に簡単に行うことができる介護予 防のしくみづくりが必要。(常盤平団地) ○ゴミ問題で本人よりも周囲が困っている。 地域での取り組みや、制度・サービス活用だ けで解決するのが難しい。(小金原) ○高齢者の生きがい支援や新たな役割の創 出、コミュニティの再構築に関する必要性を 共有する場が必要。(馬橋) ○傾聴ボランティアの担い手が不足してい る。(馬橋) 【周知・啓発】 ○認知症の方へのかかわり方の周知が足り ない。(常盤平団地) 【地域住民同士の関係】 ○認知機能の低下がしており、地域とのつ ながりが希薄である。(常盤平) 【その他】 ○住環境のバリアフリー化(常盤平団地) ○移動困難者が利用できるバス以外の資源 が少ない。(馬橋)	実 態 把 握	○本人希望を元気なうちにしっかりと確 認しておく。 ○社会資源としてTOKIWALKを理解す る。	○傾聴ボランティアの担い手が不足して おり、傾聴を希望する方のニーズに十分 対応できない可能性がある。	○個人情報取り扱いの壁について。 ○従来のままでは見守りのなり手は減る 一方。なつてもいいと思わせる対策を考 えるべき。	明第1 常盤平 常盤平団地 馬橋
			普 及 啓 発	○地域の担い手の世代交代がうまくいっ た事例の共有。 ○啓発事業やイベントで地域住民に相談 窓口を周知する。 ○地域の情報を収集し、地域住民に周知 する。 ○ポスターを事業所等に掲示できるよ うな案内をしていく。 ○地域の中で地域包括のチラシを手 に取れるようにする。	○認知症の人が安心して暮らせる仕組 みを若い世代に周知できていない。 ○本人が参加可能なボランティア活動の 周知。	○TOKIWALKの普及啓発の強化。 ○地域資源一元管理システム、多機能 コーディネーターの周知、啓発が必要。 ○各種相談窓口周知。 ○ゴミの出し方について、回収日や地区 ごとにわかりやすい表を作る。	
			連 携 強 化	○介護予防、フレイル予防の取り組み。 ○近所付き合いの強化。 ○地域住民や多機関職種による連携に ついて。 ○、関連各所への共有の仕組み、協力体 制の構築。 ○見守りで気付いた時に相談可能な窓 口の周知。	○地域の関係機関との見守り連携強化。 ○話を聞いてあげれる支援者が複数い ることで、支援者の負担を分散しながら 本人の社会とのつながりを支援する。	○専門職が情報共有しやすい仕組み作 り。 ○地域での助け合いが市全体に広がる よう働きかける。 ○社会資源のマップ作りをし、地域の ネットワークの中で共有し活用できる仕 組みづくり。	
			取 組 検 討	○介護予防に関して社会資源の充実化 を図る。 ○TOKIWALKのチェックポイントを再 検討する。 ○地域でゴミ出しを支援する仕組みなど 検討。 ○ゴミ集積所の管理は地区ごとのルー ルで行っている。 ○困りごとを早期に発見できるよう、地 域包括の相談経路の強化。	○道に迷う人が地域で安心して暮らすこ とができない。 ○気軽に乗れる、移動支援のサービスが ない。 ○高齢者を傾聴する資源やサービス不 足。 ○外出が困難な方が参加できる自助グ ループのような高齢者が集まる所がな い。	○TOKIWALKチェックポイントの増強。 ○制度に当てはまらない方への支援体 制の構築。 ○ゴミの回収時間に合わせてサービス介 入できない場合の措置があると良い。 ○専用の窓口などの設置、ケース事の対 応マニュアルなどの作成など。	